

4つの視点

I 生徒の参加度を高める工夫

授業の中で生徒が参加できる場面を作る工夫をする。例えば、国語の語句の意味調べでは、全員が辞典を持参し、各自で調べるとか、数学の問題では、まず、自力解決の時間をとり、その後、できた人に説明してもらうなど、一人ひとりがどのように解くかを考えていく場面を大切にする方法などがある。受け身の授業ばかりではなく、自分で考え、自力で解決する過程を大切にすることが必要であると考えた。

II 協同での学習場面を作る工夫

みんなで考えたり、切磋琢磨して競い合ったり、自分達で考える場面を入れていく工夫をする。授業スタイルを生徒同士あるいは教師と生徒が共有する時間を作っていくことが大切であると考えた。

III 達成感を実感させる工夫

50m走の記録が伸びたとか、できなかった問題が解けたとか、目に見える達成感を持たせる工夫をする。「今までできなかったことができた」「わかった」という達成感を大切にしておくことが必要であると考えた。

IV 個に応じた工夫

生徒一人ひとりに応じた目標設定の工夫をする。例えば、「ここまでは読めるようにしよう」「前半と後半の半分ずつに分けてやってみよう」というような方法や基本問題と応用問題を出し、解けることからやってみようという方法のように個人個人の目標を設定して取り組める環境を作ることも大切であると考えた。